
特集) 成熟時代の就職活動③

～「就職難は期待の裏返し」～

逆説的な言い方ですが、私は現代の大学生の就職難は、日本の産業界の新卒者への期待の大きさを物語る現象であると考えています。つまり、大学生がなかなか内定を獲得できない背景には、企業側が新卒採用要件のスペックを上げているといった現実があります。しかし、そうした現実には「既存社員では解決できない問題」に対するハイスペック人材への期待でもあるのです。

「新卒者にそのような問題解決能力を期待するのは無謀である」といった議論もありましょう。しかし、成長期の日本の標準的な労働者が担っていた職務を成長著しいアジア諸国が担い、さらにはITによって大きな省力化が実現している現在、ハイスペック人材の育成は急務です。そのような人材の初期条件として、従来の商習慣や労働意識に縛られず、環境変化への最適化をゼロベースで講じられる柔軟な思考力、かつて社内の誰もが取り組んだことのないプロジェクトを積極的に推し進める主体性などは必須でしょう。

実は、こうした「問題解決型人材」への希求は、経営者への聞き取り調査にも表れています。一例として2010年4月に日本経団連が報告したサーベイ結果があります。同報告では「選考にあたって特に重視した点(複数回答可)」として30%を超える項目として以下の6点が挙げられています。

- 第1位 : コミュニケーション能力 (81.6%)
- 第2位 : 主体性 (60.6%)
- 第3位 : 協調性 (50.3%)
- 第4位 : チャレンジ精神 (48.4%)
- 第5位 : 誠実性 (38.9%)
- 第6位 : 責任感 (32.9%)

(筆者が30%以上のものを抜粋)

また、同報告には前年との比較も提示されており、以下の順で変動があったことも示されています。

「選考にあたって特に重視した点」対前年上昇項目

項目：項目 上昇% (2009年→2010年)

- 第1位：専門性 8.9%上昇 (10.3%→19.2%)
- 第2位：一般常識 6.6% (6.9%→13.5%)
- 第3位：主体性 5.4% (55.2%→60.6%)
- 第4位：コミュニケーション能力 5.0% (76.6%→81.6)
- 第5位：職業観・就労意識 2.8% (16.6%→13.8%)

※筆者が上位5位のを抜粋

「専門性」や「一般常識」は全体から見れば高い数値ではありませんが、これらが確実に高まっている背景には、成熟期という時代の特徴があるでしょう。つまり、新卒者に対しても漠然としたポテンシャルを期待するのではなく、「このような領域の能力を持った人材がほしい」といった特定のスペックを期待しているのです。また、グローバル化の影響からか、仕事で海外とコミュニケーションする機会も増えます。そこで、グローバルリテラシーとしての一般常識も期待されます。「大学で何を学んできたのかが見えない学生」や「ものを知らない学生」は明らかに倦厭される時代になっているのです。

さらに、前年よりも下げ率が多かった項目として、以下のような傾向を指摘することもできます。

項目：項目 下降% (2009年→2010年)

- 第1位：協調性 5.8%上昇 (56.1%→50.3%)
- 第2位：論理性 5.0% (26.2%→21.2%)
- 第3位：責任感 3.7% (36.6%→32.9%)
- 第4位：柔軟性 3.7% (19.5%→15.8)
- 第5位：チャレンジ精神 3.1% (51.5%→48.4%)

※筆者が上位5位のを抜粋

減少幅が大きいのは「協調性」(5.8%マイナス)と「論理性」(5.0%マイナス)です。先の上昇項目ともあわせて考えると、企業は新卒採用活動を通じて「屁理屈をこねあう仲良し集団から脱却し、積極的な市場とのコミュニケーションを通じて、ときには専門性をぶつけあう知的集団へと変貌を遂げよう」としている姿勢を窺い知ることができます。

成熟社会における就職活動で勝ち残るためには、学生自身が、こうした企業の人材ニーズの変化について、可能な限り早期に知っておく必要があります。そして、市場性のある専門性やコミュニケーション能力を身につけていけばよいのです。大学側も、学生にそうした自覚を促し、市場性のある資質を身につけやすい環境を整えることが急務となります。かつては「大学生の就職活動は学生の自主性に任せる」といった発想が主流でしたが、恒常的な新卒者ニーズが減退し続け、学究活動自体は大きなトレンドでほとんど変化していない中、学生にとって「大学と社会との橋渡し」は、やはり必要です。平たく表現すれば、学内での学習、研究は昔と変わらず、とりたてて職業と就職活動と関係なく行われていますが、学外の就労環境は天と地ほどに変化してしまいました。その変化に対応するための示唆を提示するのが、成熟時代の新しい大学の役割になってきています。

かつて国立大学協会会長もお務めになった歴学者の故・阿部謹也氏は、経済誌の「最も企業が採用したい大学」といった特集記事の取材で、こう答えていました。「戦前・戦中は、大学生になるまでに大人になる機会があったが、今はそれがない。だから、大学の教員にも指導力が求められる」。大学におけるキャリア教育、職業能力教育についての議論も、この延長線上にあると筆者は考えます。幸いなことに、成熟社会で求められる人材スペックは、かつてより高度で専門的なものになっています。学問とのギャップが小さくなっているのです。学問の社会性、もっといえば市場性について深く考える機会を、学生にも教員にも提供できますので、キャリアセンターやエクステンションセンターが「労働市場と学問に打ち込む学生とをつなぐユニークな役割」を演じることができれば、入試広報的にもアドバンテージとなる差異化を図ることができるはずです。

了

前回までのメールマガジンはこちらでご覧いただけます↓

⇒ http://r.advg.jp/adptg_count/r?adptg_aid=1369&adptg_mid=15091&adptg_lid=1

大学・短大職員様向けホームページはこちら↓

⇒ http://r.advg.jp/adptg_count/r?adptg_aid=1369&adptg_mid=15091&adptg_lid=2

【お知らせ】 大学・短大様向けパンフレット、DVD 出来上がりました

資格対策や公務員の大学内講座や就職支援プログラムなどといった
LEC の大学・短大様向けのサービスをはじめ、読み応えある特集記事
や実績、学生のスキルアップイメージなどを全 3 4 ページに凝縮して
おります。

大学向けキャリア講座のガイダンス DVD もご用意が出来上がりました
ので、パンフレットと共にご希望の大学・短大ご担当者様に、無料で
ご送付させていただきます。

大変お手数ですが、下記の方法でご請求下さい。

①お問い合わせいただいている営業担当にご連絡

②WEB からのご請求

→ http://r.advg.jp/adptg_count/r?adptg_aid=1369&adptg_mid=15091&adptg_lid=3

③お電話でのご請求

→ 03-5913-6331 (大学営業課担当：佐野)

皆様からのご請求お待ちしております。

■本メールの配信停止・メールアドレス変更をご希望の方は、
下記 URL で手続きをお願い致します。

https://regist.lec-jp.com/partner/univ/form_del.html

■発行:LEC 東京リ・ガルマインド 大学事業課

■Copyright (C) 2011 TOKYO LEGAL MIND K.K., All Rights Reserved. !